



幼子のように

B

「一休のひらめき」にご来店くださったお客様が、サロンでの出来事をもとにエッセイを書いてくださいました。

（文芸誌で入賞されたこともある方です。）円山が説明するより、事業内容のイメージが付きやすいと思いましたので、パンフレットの代わりにご紹介致します。

平成 28 年度千代田区男女
共同参画センターMIW
講座「女性の起業スタートアップ講座」第3回
起業した女性の体験を聞く
2016/07/20 円山カリ

幼子のように



わたしは親に頭をなでられた記憶がない。とは言っても、親との縁が薄いわけでもない。父はごく普通の会社員だったし、母は専業主婦で、いつでも家にいた。

口数の少ない父にあまり構われたという記憶はないが、彼は毎朝、母に見送られて仕事にでかけ、夕方に帰ってきた。

母は、それほど度を越していなかったと思うが、よく言うところの教育ママだった。学校の帰りに寄り道をさせず、帰宅すれば家の手伝いではなく、宿題をさせた。

この母は電車の中などでかわいい赤ちゃんを見ると、「まあ、かわいい」と

つぶやく声をもらし、ほおずりしそうになる。実際に、他人の赤ちゃんにさわったりはしないが、かわいもの好きだ。そんな姿を見るたびに、この人の赤ちゃんであつたころ、それこそなめるようにかわいいがられたに違いない、と思うのだが、そんな記憶がない。かわりに覚えているのは、

「学校帰りに寄り道するのではありませんよ。家に帰ったら、まず宿題をやりなさい」という怖い声であり、読書好きだったわたしが本を手にとると、「本を読むより、学校の勉強を先にしなさい」だった。

母のおかげで、学校で落ちこぼれることもなく、大学卒業後、ついた仕事をもう四半世紀、続けている。朝八時半に出勤してから夕方まで、コンピュータ画面に向かって入力作業をしているか、または訪ねて来た人の話を聞いている。その方々の望んでいることを短い時間で把握し、それに対してこちらが提供出来ること、そして出来ないことをわかつていただく。このようなことを、ほとんどが初対面の方としていくのは、けっこう集中と緊張を要する仕事だ。

仕事中の自分の姿勢を見たことはないが、おそらくひどい前かがみになって、首は前に突出し、背中から腰まで丸まっているに違いない。朝十時ごろにはもう首や背中、そして特に腰を支えている両臀部の筋肉が痛くなる。これらは座った姿勢が長い時間、負担がかかり続けている筋肉だ。

その上、近視と乱視があり、コンピュータ画面の小さな字は見えないことがある。仕方なく顔をそばに近づけ、両目をしかめているせいだろう。ずきずきするこめかみを自分で押したり、さすったりすることもしょっちゅうだ。

さらに今年二月、庭の蠟梅が開花したころには、口を開くたびに右の顎関節で、ザリザリ、と引っかかるような音が立つようになり、そのうち食事するために口を開くのも、痛くなつた。顎関節症を診てくれる病院を探したが、仕事を休まなければ行けないとわかり、他の方法を探すことにした。

顎をさすったり、こめかみを押さえたりしながら、私はネットでマッサージ店を調べ始めた。

そうしてヘッドマッサージに特化したお店があることを知った。しかしそ

のお店ホームページに行き着いてから、実際、行つて見ようと決心するまでもう一ヶ月を要した。本当にそこにいけば、こめかみやあごの痛みがよくなるのか、わからなかったからだ。

そうして、側頭部だけではなく、頭全体が重く、痛いのに悩まされ続けたあげく、夜中も何度も目が覚めるようになり、わたしはどうとう決心した。

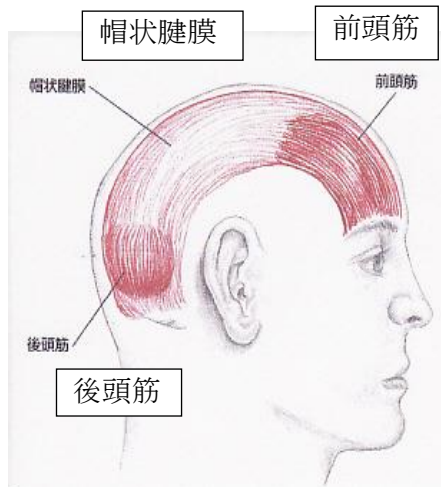
さてその当日、ホームページで案内されていた地図を頼りにお店の場所を見つけるのは難しくなかった。小さな看板のついた入り口はともシンプルで、ええ、これが？ と内心思うような飾り気のなさだった。

しかし戸が開いた瞬間から、オーナーであり施術者であるKさんの笑顔と元気な声にわたしの緊張はほぐれ始めた。案内された一人掛けのソファは華美ではないが、座り心地がよい。そこでほつと体の力を拭くと、今、手ずから入れた温かいお茶を勧められた。簡単な問診の間も、こころのほぐしが始まっていった。

次に、足浴をしながら、肩と背中のはぐし、そして施術ベッドにあおむけに

横になり、ヘッドマッサージが始まった。
思ったより、ずっとソフトなタッチだった。

頭皮の下には薄い筋肉がある。頭蓋骨を前から後方にかけて覆っているのが、**前頭筋**と**後頭筋**だ。わたしが額にしわをつくるたびに前頭筋は緊張する。また頭の横から下あごのほうへ伸びているのが**側頭筋**だ。これは親指で押すと、イタ気持ちいい、こめかみのあたりだ。そしてその少し下にあたり、下あごを上げる時に使っているのが**咬筋**だ。



頭全体が締め付けられたように痛いのは前頭筋、後頭筋が凝り固まっている

るせいで、また口を開くごとに顎で音がして、物をかむのが痛いのは咬筋や側頭筋のこりのせいだろう。

しかし背中や腰に比べると、これらの筋肉は薄いし、大変デリケートな場所だ。どのようにマッサージできるのだろうか？

Kさんは、わたしの髪の毛をかけ分けて、頭皮をソフトにまさぐっていたかと思うと、あるポイントでは心もち指先に力をこめ、そこで固まっている頭皮を刺激するかのように、ひっぱった。痛くもなく、それでいて物足りなくもない感覚に、わたしは安心して、頭をすっかり委ねた。

そんな施術が始まってまもなく、なんとも言い表しがたい、温かくなつてかしい気持ちになった。じわっと、目頭が熱くなつて来たのだ。わたしは動揺した。幸い、顔にはタオルがかけられており、Kさんに気がつかれないだろう、と思った。

母に言われた通り、寄り道をせず学校と家を往復していたわたしは、このところから感情をあまり表さず、そして効率主義だった。成績はいつも上位にあったが、放課後友人と遊びまわる能力は育たなかった。人前で泣くこ

とはまずなく、大声を出して騒ぐこともなく、手のかからない子供だった。

さて、施術中、わたしは寝てしまい、その後のマッサージがどのようなに行われたのか、詳細には思い出すことが出来ない。ただ、施術がおわって、また最初のソファアに戻った時、あれだけ重苦しかった頭が、ほんわか暖かく、軽くなっていた。

かわいらしい桃色のマカロンと熱いお茶をごちそうになりながら、アンケート用紙に書き込んでいると、「何か書くお仕事ですか？」と聞かれた。もちろん違う。しかしここ数年来、エッセイや小説を書いては、公募に投稿するのを楽しみにしていたことを、その日は話さず、辞した。公募投稿が趣味だと言うのに、気おくれを感じたからだった。

その次にうかがったとき、Kさんに質問をした。

「なぜ、このような店を自分一人で出そうとしたのですか？」

起業のきっかけや起業後の大変さや楽しさを聞いて見たかったのは、小説

のネタになるような話を仕入れようと思ったのである。

それまでの勤め先から退職したことはプロフィールからわかる。定職を持っていた人が、退職してまで起業しようとはどういう気持ちだろうか？

きっかけになった話をしてくださった時、彼女の真摯さに胸を打たれたわたしは、自分が趣味で投稿していることも話した。

「本当にしたいことがわかっていいるなら、そのために時間を使わなくては…。時間は本当に短い。あつと思うと終わりなってしまう」

Kさんの切実な声であった。

「なぜ書くの？ たとえ書いたものが評価されてもされなくても、あなた自身、もうすばらしいのよ」

加えて、包み込むような笑顔で、そう言ってくださいました。

仕事の成果ではなく、私自身を、ただそれだけですばらしいなどと言ってくれる人は、残念ながらあまりいない。「そのままですばらしい」と言われて

も、普段のわたしなら、笑って聞き流してしまうだろう。しかしこの時のKさんの言葉は、今も胸の中に「宿って」いる。

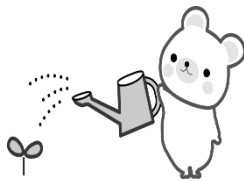
そうして最初のモノローグに戻る。

わたしが母からかわいがられなかったはずはないのである。最初にヘッドマッサージを受けたとき、泣けてきたのは、その子供時代の記憶にふれたからなのだろう。

頭痛と顎関節症がよくなれば、もっと効率よく働けるだろう。そんな当初の狭い目的から受けたマッサージが、自分自身の生活を見直し、そして自らをそのままに大切にすることへ、と今、育っている。

これ以上の成果をあげるためではなく、自分にもっとやさしくある、ことを学びつつある。

あとがき



「我が道を行く」タイプであるわたしを、温かく受け止め、憩わせてくださったのがKさんでした。

朝から晩まで「やること」にとらわれ、自分を振り返ることを忘れてしまっている人が、少なからずいると思います。

世の中には疲れを癒し、少しでも喜んで生きられるよう、発信された情報がたくさんあります。その中からヘッドマッサージのことを取り上げてみました。

一人一人に与えられた時間は
それほど長くはありません。
今を大切に生きたいです。

